



## CONTENTS

## PF Topics

「第14回通常総会」が開催されました

1

## WS Topics

2

## VOICE

3

鉄道建築のルーツを訪ねて

J R東日本 中井 輝明

## たすきリレー

4

魅力を活かしたまちづくり

鉄建建設(株) 花田 正喜

## 国際データ比較

5

## P F 書店／私のインフラ巡礼／編集後記

6

## PF Topics

「第14回通常総会」が開催されました

去る6月13日に（一社）未来のまち・交通・鉄道を構想するプラットフォーム第14回通常総会が開催されました。

当期においては2020年春から始まった新型コロナウイルスの感染拡大状況も収束に向かい、我が国においては2023年5月に感染症法上の同ウイルスの扱いが第五類に移行したことから、いわゆるポストコロナ期、平常化への動きが定常化し、社会経済活動も回復が加速する一年になりました。このような中、発足から13年目に入った本会においては、新しい執行体制に移行して3年目を迎え、各種行事の復活、平常化に向けての活動を推進し、駅まち未来構想研修や見学会、技術講演会の開催、受託研究などを実施し、成果を挙げてきました。

2024年度は、今年2月から活動開始した「2023・2024年度未来構想ワークショップ」における新木場駅の将来構想の深度化を始めとして、若手技術者を対象とした「駅まち未来構想研修」の次年度開催に向けた検討や、宇都宮LRT開業後現場視察に続く「視察・見学会」、法人会員や賛助会員も気軽に参加できる「技術講演会・セミナー・パネルディスカッション」などの取り組みを行っていく予定です（取り組みの内容はタイムリーにPF通信にて情報発信してまいります）。



## 私のインフラ巡礼



## ～東急砧線廃線跡～

かつてジャリ電が走っていた二子玉川～砧本の2.2kmの砧線廃線跡（J R東日本 岩井有人）

未来構想PFのホームページ（HP）をご覧ください。

会員はもちろん社会に大きく開かれた「参加型」HPです。

検索

で検索してください。

トップページへのリンクは

[こちら](#)



WS Topics

2023・2024年度 未来構想 P F ワークショップ  
(第3回)

去る5月29日に2023・2024年度未来構想ワークショップ第3回が開催されました。今回は、有識者からのヒヤリング、昨年度のワークショップの成果報告(Ⅲグループ：新木場駅)、ならびにメンバーを中心としたフリーディスカッションを実施いたしました。

特に、有識者からのヒヤリングでは、竹中工務店の高浜洋平様をお招きし、新木場エリアを含めた「イーストベイプロジェクト」の紹介として、深川川床プロジェクト、健康緑道プロジェクト、都市型自動運転船の開発、アーバンヴィンヤードなどの実証実験の内容や新木場の課題と未来仮説についてご説明をいただきました。

昨年度のワークショップの成果も参考に、今後のワークショップの活動を引き続き進めてまいります(次回は9月4日の予定)。



高浜講師の講演



昨年度Ⅲグループの説明



フリーディスカッション



表 未来構想PF 2023・2024年度調査研究ワークショップ メンバー (敬称略)  
【テーマ：新木場駅及び駅周辺の再整備】

Ⅰグループ (駅周辺整備)	
◎大門 創	國學院大學 観光まちづくり学部 地域マネジメント研究センター准教授
横山 大輔	国土交通省 都市局 市街地整備課企画専門官
升田 大輔	(株)日建設計 都市・社会基盤部門 都市基盤計画G 都市計画部アソシエイト
江村 元行	(独)都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部 事業推進第1課担当課長
北野 貴士	(株)三菱地所設計 都市環境計画部
Ⅱグループ (沿線まちづくり)	
小嶋 文	埼玉大学大学院 理工学研究科 環境科学・社会基盤部門准教授
桂 健太郎	東京都 都市整備局 都市基盤部 街路計画課長
江岡 年和	J R東日本コンサルタンツ(株) 調査計画本部 計画部 課長
◎石川 幸宏	東京メトロ 鉄道本部 鉄道統括部計画課 まちづくり連携PT課長補佐
高城 通有	三井不動産(株) 開発企画一部開発企画G 豊洲P推進部事業G グループ長
Ⅲグループ (駅機能向上)	
布施 孝志	東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 教授
◎本波 和也	J R東日本 東京建設PMO 新宿PJC駅改良Ⅲ 副長(チーフ)
金井 昭彦	(株)J R東日本建築設計 プロジェクト開発本部 開発調査部次長
齋藤 正一郎	(独)鉄道・運輸機構 新幹線部 企画課課長補佐
大竹 佑馬	鉄建建設(株) 東京鉄道支店 羽田アクセス田町作業所次長
ファシリテーター 事務局	廣瀬 隆正 (J R東日本 顧問) 大口 豊 (J R東日本エネルギー開発 副社長)

◎：グループリーダー



## VOICE

## 鉄道建築のルーツを訪ねて

J R東日本 中井 輝明

## 1. はじめに

以前から社会を支える建築に興味があり、大学卒業後は郵政・通信・鉄道のどれかに携わりたいと考えていました。電力、物流、または自衛隊の施設管理も検討しましたが、縁あってJR東日本に入社し、主に建設分野を中心に働いてきました。現在は国内での経験をもとに国際事業本部でインド高速鉄道の建設に従事しています。入社以来、各地の鉄道建築を記録し、その果たしてきた役割を考察することがライフワークのようになっていきましたので、紙面をお借りしてそれについて記してみたいと思います。

## 2. 鉄道の役割と建築

戦後の混乱期から日本が復興するにあたり、鉄道は人貨の輸送を通じて大きな役割を果たしてきました。特に貨物の輸送にあたっては、石炭をはじめとした資材の供給に鉄道はなくてはならないものでした。こちらは本稿をご覧の皆様の方が詳しいことと思いますので詳細は省きますが、猛スピードで鉄道をつくっていきました。輸送の時代でした。誰にでも安全でわかりやすく快適であることが駅の要件でした。

一方で鉄道建築は日本の建築技術の先端を走り、不燃耐火構造、PCa構造、旅客流動解析などは鉄道建築が確立した技術です。時代が進むと駅の高度利用、輸送から総合サービスへと、社会の求めに応じて進化し続けているところも鉄道建築の魅力だと感じています。

## 3. 標準設計

鉄道建築は路線の拡大に伴い、膨大な量の建物を建設してきました。その物量を処理するため、標準的な設計図により、標準的な材料を用いて、さらに基準・標準・指針等を整備して規格化がすすめられました。標準設計については、現代では画一的で個性に欠けると否定的ですが、質より量の時代がありました。戦後復興に標準設計の果たした役割は大きく、この功績はもっと評価されてよいと思っています。

## 4. 鉄道で働く人々を支える

国鉄は1949年の発足時、引揚軍人を受け入れたことなど政治的な事情もあり約60万人の職員を抱えていました。そのそれぞれの職場をはじめとして、宿舎、寮、病院や共済施設も建設しました。宿舎は

標準設計により年間2,000戸のペースで建設されましたが、これは老朽化した木造宿舎を効率よく取り換えるためでした。

## 5. 鉄道建築三選

私が個人的に好きな鉄道建築を三つご紹介します。いずれも世相と技術が反映された貴重なものです。

## ① 東海道新幹線京都駅（京都府）

新幹線駅の特徴は、地方駅でありながらフリークエントサービスを考慮した電車駅スタイルの計画を採用しているところです。東海道新幹線の各駅は標準設計を採用し短期間で建設されました。これらの駅は日本建築学会賞を受賞しています。

## ② 旧和田山機関庫（兵庫県）

二線収容のレンガ造機関庫で、妻面のアーチのほか、石が多用されているのが特徴です。現在は朽ちてしまっており、近づくことはできませんが和田山駅のホームから遠望することができます。焼きが足りないのか、黒色が強いレンガが混ざっているのも確認できます。

## ③ 篠路駅周辺たまねぎ倉庫群（北海道）

昭和10年の札沼線の開通に伴い、篠路地区の特産品であるたまねぎを全国各地に鉄道で送り出す重要な基地になった倉庫です。札幌軟石造の一号倉庫が有名ですが、倉庫群は徐々に撤去が進んでおり、見学ははやめがおすすめです。



①東海道新幹線京都駅



②旧和田山機関庫



③篠路駅周辺たまねぎ倉庫群

## 6. 終わりに

古い建築が耐用年数を待たずに撤去され建て替えられるのは、仕方がないこととはいえ寂しいかぎりです。せめて建築が健全なうちに、その雄姿の記録を今後も続けたいと考えております。



## たすきリレー

## 魅力を活かしたまちづくり

鉄建建設(株) 花田 正喜

## 1. はじめに

1976年に国鉄盛岡工務局から始まった私の鉄道建設関連の仕事人生も既に49年目に入った。東北新幹線の建設、在来線の線路増設、水力発電所の建設、鉄道と道路の立体交差化、新幹線在来線の直通化、震災復興など様々なプロジェクト参画を経て今日に至っている。

1976年当時と比べて都市間輸送は速達化が図られ快適性も高まった。そして、踏切も多く解消され様々な新技術とも相まって鉄道の安全性は格段に向上を遂げてきたと思う。

## 2. そして地方都市では

私が住む盛岡は「ひと・まち・未来が輝き世界につながるまち盛岡」を将来像に掲げ、取り巻く社会情勢の変化を踏まえた時代の要請に沿った計画を策定中である。少子高齢化や人口減少の進行、大都市圏への一極集中による地域間格差の拡大、ICTの急速な進展による高度情報化、地球温暖化による気候変動や自然災害の頻発・激甚化、未知のウィルス感染症の流行など、まち・交通・鉄道の未来構想が今まさに地方都市においては共通した課題と言える。

## 3. 今が地方創生の好機

DXによる新たな働き方の浸透やデジタル実装による地方と都市との格差是正やSDGsへの関心の高まりもあり、今は地方創生に向けた好機にあると捉えられている。その一つとして、先人が育んできた地域資源を最大限に活かすことが必須とされている。都民などに愛される東京都の高尾山、観光客や若者が多く集う大分県の湯布院に習って、盛岡も豊富な文化遺産や自然の魅力を最大限に活かしたまちづくりがなされればいいと考えている。

## 4. 魅力的な盛岡市近郊の自然歩道

私が国鉄盛岡工務局に勤務し始めた翌年ということになるが、周囲を山々に囲まれ、街中にも緑あふれる盛岡で四季の移ろいを感じな



がら自然に親しんでもらおうと、盛岡市は1977年に近郊自然歩道のコース設定を行い、案内板などを整備したことを最近になって知った。県外勤務を永く続けてきたが、この4月に地元盛岡に戻ったのを機にこの自然歩道で軽登山を気軽に楽しみたいと思っている。盛岡というまちの大きな魅力といえるこの自然資源を皆様にも是非知ってほしいとの思いからここで紹介させてもらうことにした。是非お立ち寄り下さい。

- ① 北山散策路：岩手山や駒ヶ岳、姫神山の眺望に恵まれ、文学碑など郷土の歴史の理解が深まる散策路。
- ② 蝶ヶ森たたら山コース：市の木「門のシダレカヅラ」や季節の野鳥や植物を観察しながら、心も体もリフレッシュ。
- ③ 白滝コース：名勝「白滝」沿いに林間をぬい、岩山八木田まで野鳥の唱や植物観察をしながら森林浴。
- ④ 高松・四十四田コース：湖面に岩手山の姿を写す四十四田ダム南部片富士湖の眺めと四季の野鳥や植物を観察。



- ⑤ 大志田・中津川コース：溪流に沿ったなだらかな道のりで森林浴や米内川と中津川の二つの水系の源流を散策。
- ⑥ 太田薬師コース：猪去沢やオガセ滝の清冽な流れを見ながら、自然の中の散策と市街地の眺望を堪能。
- ⑦ 岩山散策路：山頂には啄木望郷の像があり、展望所からは岩手山などの山並みを背景に市街を一望。
- ⑧ 大ヶ生・朝島山コース：朝島山の山頂からは北上川の流れと背景の岩手山や紫波三山、早池峰山の勇姿を眺望。
- ⑨ ニッ森コース：周辺には米内川と中津川が流れ、コースの間では綱取ダムで休憩やダムの景観を堪能。



⑦ 岩山散策路のコース

(出典) 盛岡市環境部HP

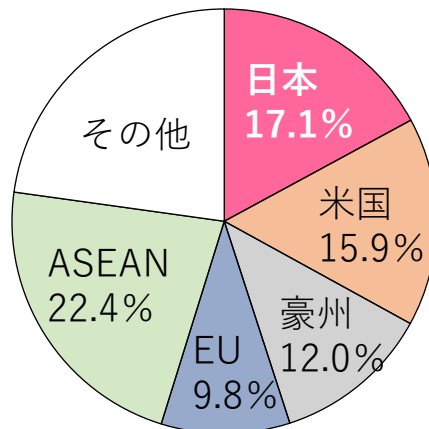


今月の国際比較データ



● ASEANの人が住みたい国

先日の朝刊で日本国民としては嬉しい記事があったので紹介します。シンガポールのISEASユソフ・イシャク研究所によると、東南アジア諸国連合（ASEAN）の人々が住みたい国は、域外で日本が首位でした。日本と回答した人は全体の17.1%に上り、米国（15.9%）やオーストラリア（12%）などを上回りました。同じ東南アジアの識者を対象に聞いた「信頼できる国・地域連合」でも日本が米国や欧州連合（EU）を上回り首位でした。国際法を順守する姿勢に加え、経済の強さ、文化への憧れなどが信頼の背景にあるとのこと。



(出所) ISEASユソフ・イシャク研究所



募集中!

「私のインフラ巡礼」コーナー

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様からの「私のインフラ」コーナーで紹介するインフラ関連の写真を募集しています。写真だけでも構いません（紹介文と一緒にどうぞ）。皆様からのおススメなインフラ紹介をお待ちしています！

連絡先：未来構想 PF 事務局 大口

電話：03-4334-8157

メール：[info@miraikoso.or.jp](mailto:info@miraikoso.or.jp)



PF 書店



本の題名をクイックすると、出版社の書籍紹介HPにリンクします！

① **1100日間の葛藤** (尾身 茂 著 日経BP)

ねえねえ尾身さん。そんなハッシュタグもあった。新型コロナウイルス対策で多大な貢献をされた尾身茂さん。そんな尾身さんの葛藤を記した『1100日間の葛藤』。新型コロナウイルスのパンデミックに対する日本政府の対応を内部から記録した貴重なドキュメント。尾身さんがどのようにして困難な状況に対処し、時には政府との意見の相違や国民の批判に直面しながらも、公衆衛生の専門家としての使命感を持ち続けた姿が克明に描かれている。「リスクコミュニケーションは自分事として捉える」。まさにその通りである。

② **「まちライブラリー」の研究** (磯井 純充 著 みすず書房)

『「まちライブラリー」の研究』。まちライブラリーは以前から耳にはしていたが、訪れたことはなく、本好きとしてはいつかは行ってみたいまちライブラリー。この本は、そんなまちライブラリーを通じて地域のコミュニティと読書文化の融合を深く探求する一冊。著者は、まちライブラリーの持つ可能性とその社会的意義を多角的に分析し、具体的な事例を通してその効果を明らかにしている。地域の絆を強め、文化的な活力を生むまちライブラリーの魅力が詰まっている。まずは近くのまちライブラリーを探して訪れてみたい。

③ **量子力学は、本当は量子の話ではない**  
(フィリップ・ボール著 化学同人)

今流行りのChatGPTに感想を聞いてみた。『量子力学は、本当は量子の話ではない』は、量子力学の従来の枠組みを超えた新しい視点を提供する優れた書籍。物理学の理論に対する深い理解を促し、科学の概念を再考するための洞察を与えてくれるため、幅広い読者にとって有益な一冊となる。科学に対する理解を深め、より広い視点で物理学を考えるための貴重な資源となることは間違いない。タイトルからも分かるように、量子力学を新たな視点で捉え直すことを促しており、従来の量子力学の教科書からは一線を画している。



私のインフラ巡礼



## 「東急砧線廃線跡」 (東京都世田谷区)



先日、とあるイベントで二子玉川を訪れましたが、その会場がちょうど東急砧線が過去に走っていた周辺だったため、そのついでに二子玉川から砧本村まで廃線跡を歩いてみました。

東急砧線は、多摩川の砂利を都心へ輸送する目的で、前身の玉川電気鉄道により1922年に玉川(現・二子玉川)～砧本村(約2.2km)の軌道路線として開業しました。先に開業していた渋谷～玉川の玉川線とともに「ジャリ電」とも呼ばれていました。残念ながら1969年5月11日に玉川線(「玉電」とともに砧線は廃線となりました。

そんな砧線の廃線跡は「きしべの路」や「花みず木通り」などの遊歩道や車道になっており、中耕地駅跡にある写真付きの看板や石碑など随所に砧線が走っていた跡を見つけることができます。

(JR東日本 岩井 有人)

## 編集後記

関東地方はまだ梅雨入りをしていない今日この頃ですが、今年も総会が無事に開催されました。現在活動中のワークショップをはじめとして、さまざまな活動の報告や今後の事業計画について審議されました。未来構想プラットフォームの活動を幅広くタイムリーに紹介すべく、今後も「未来構想プラットフォーム通信」にて積極的な情報発信に努めてまいります。(A.I)